

昨今はナビゲーションの進化により、迷うことなく目的地にたどり着けるようになりました。しかし、当然ながらどれだけ優れたナビでも、目的地を入力しなければ機能しません。一方、日常ではこの当たり前前のことが忘れられ、目的意識が希薄なまま物事に取り組んでいることがあります。

目的意識を強固にすることは、物事の方性を定めます。そして目標は、そのための具体的な指標であり道標となります。逆に、目的や目標が不明瞭だと岐路に立った時の判断も曖昧になり、その場の快・不快による刹那的なものになります。

道に例えるなら、右がアスファルトで左が泥道だった場合、多くの人はアスファルトを選ぶでしょう。しかし、目的地から逆算すると、一時的には厳しくても泥道を選んだ方が良い場合があります。

目的地に向かうにあたり、長く平坦な道を選ぶのか、険しくとも近道を選ぶのか、あるいは行き慣れた道を進むのか。その方策を定めるのが目標設定にほかなりません。だからこそ、具体的な目標を掲げることが、自分のやるべきことを明らかにし、目的達成を確実に近づけるのです。

Tさんは、個人で動画編集の事業を営んでいます。近年は需要の増加により、仕事が途切れることはありません。その状況を喜ぶ一方で、あまりにも忙しさが続く現状を何とかしたいと悩んでいました。

また、依頼があっても状況によっては断らざるを得ず、お客様の要望に十分応えら



目標を掲げて 希望を未来へつなぐ

れないことを申し訳なく感じていました。漠然と社員を雇いたいとは思っていたものの、忙しさに追われ、具体的な行動には移せずにいたのです。

そんなTさんが活力朝礼の研修を受けた時のことです。講師の「朝礼は社内の活力を高め、社員が働きやすい環境をつくる」という言葉を聞き、「社員を雇った時のために、朝礼をしよう」と目標を定めました。

毎朝一人で『職場の教養』を読み、自社の理念を唱えます。すると次第に、社員が共に働く姿を具体的にイメージできるようになり、「社員を雇った方が良い」という漠然とした思いは、「社員を雇う」という決意へと変わっていききました。

さらに、「一年後までに社員を雇う」と期限を定めると、それまで手を付けていなかった求人活動にも具体的に取り組めるようになり、見事に翌年新たな仲間を迎えることができたのです。

倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋は、目標について次のように述べています。

目標とは、つまりは希望の内容にあたる。よし、これをやろうというのは、その人の希望を具体的に表わすことに他ならない。

（中略）だから目標のある人は、はりきって働き、進んで学び、積極的に仕事に取り組む人である（丸山竹秋選集 第一巻）

やる気がなければ実行は伴わず、希望がなければ前進できません。目標を掲げて希望を灯し、明るい未来への具体的な道を力強く歩みたいものです。